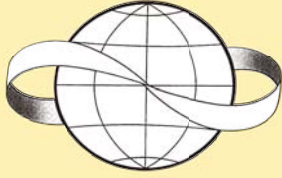


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



商標登録第 4882482 号

第76号

(新年号)

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 吉浦高志 編集長 紺野琢生
東京都東村山市久米川町1-16-18
TEL: 042-395-9788
FAX: 042-395-9787

**古紙大余剰化到来！
資源回収システム非常事態宣言**

令和になって初めての正月を、非常事態とともに迎えることになるとは思ってもよらなかった。

昨年初より、古紙の輸出価格は低迷を続け、六月出荷分の段階での輸出価格は、一〇円を切り、仕入れ値にあたる目経相場を下回る逆ザヤ状態になった。その後も輸出価格は下がり続け、一二月出荷分の輸出価格は、店頭三〜四円となり、国内価格の五分の程度にまで落ち込んだ。このため、輸出を中心に販売を行ってきた問屋の業務縮小や廃業が相次ぎ、小規模事業所や集団回収団体からのお問い合わせが九月位から当組合や組合員にも多く寄せられるようになった。市況の良い時なら荷物が増えるのはいい話なのだが、受けきれなくて近隣のお客様以外はお断りせざるを得ない状況だ。

国内製紙メーカーは、販売価格の維持と古紙リサイクルシステムの崩壊を防ぐため、一定の建値を確保し買い支えて頂いているが、輸出価格の低迷による古紙の余剰、好調だった原紙輸出の鈍化、度重なる台風被害による出荷用段ボールの販売低迷など、メーカーの原紙在庫も増えており、納入枠を制

限せざるを得ない状況になっていく。国内で流通していたおよそ八割のうち三割カットされた分が出血輸出が在庫に回るとなると、計算上は四四%が逆ザヤ状態、残りが国内価格ということになる。平均すると、問屋の古紙の売値は実際のところ建値の六割程度にとどまっただけで、問屋の経営を圧迫している。売れない在庫を抱えていることも大きな負担になっている。

しかも皮肉なことに、海外に安く輸出した古紙は、海外の製品価格を押し下げ、安い紙製品が日本に流れ込む原因になっている。実際、家庭紙やコピー用紙など輸入品が増えているように、今後じりじりと国内の製紙産業やリサイクルシステムへ影響を及ぼすことになるだろう。

話は戻るが、売値が下がれば、問屋は仕入れを下げ、それだけでは納入枠の制限に対応できないので、新規の受け入れの停止や逆有償といったケースも出てきている。その結果、一番影響を受けるのが回収業者である。ただでさえ人件費が高騰し、ドライバーを確保するのも苦労しているのに、古紙の売り上げは徐々に減っていく。かつて古紙価格が低迷していた頃、安くても量を集めて何とか

しのいできたが、今は数量をたくさん集めても取ってもらえない、在庫していても先行きどうなるかわからない、そんな状況だ。

本誌四〜六面に各種セミナーの報告記事を掲載しているが、世界的には東南アジア各国を中心とした人口やGDPの増加により、紙の需要は増えていくとみられており、実際欧州、アジア、米国、そして日本国内でも段原紙の増産計画が進んでいる。中国に集中していた製紙会社は東南アジアを中心に各国にシフトしている。また、それらの国々ではまだ回収のインフラが整っていないので、輸入古紙に頼らざるを得ない、再び古紙の需要が高まるというシナリオが描かれているが、早くも二年、長くて五年はかかると言う。

この厳しい状況を、最短期でも二年間、赤字になっても耐えられるか、もはや各会社の体力勝負になっている。持続可能な資源循環型社会の形成のためには資源リサイクルの輪を止めてはならない。回収する人がいなくなれば、また集めても受け入れる先がなければ、リサイクルシステムは崩壊する。この非常事態を乗り切るために、回収コスト、処理コストのご負担にご理解ご協力をお願いしたい。

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

日本では年間一千万t強のプラスチック原料が生産されています。これが製品になり、様々な所で使われ、役目を終えれば廃棄物として処理されることとなります。二〇一七年の廃プラスチック量は九〇三万tで、うちリサイクルされたのはマテリアル二一萬t、ケミカル四〇萬t、サーマル五二四万tでした。総排出量九〇三万tのうち、七五万tが何らかの形でリサイクルされたことになり、同年の有効利用率は前年比二%増の八六%となりました(1)。

直言拝聴 「プラスチックについて 思うこと」

一般社団法人プラスチック循環利用協会
総務広報部
鈴木 雅夫 様

プラスチックは私達の生活を豊かにする有用な資材として一世紀以上に亘り使われてきました。今では使われてないところを探す方が難しく、現代社会はプラスチックがあつたから成り立っているともいえます。

しかしここに来てプラスチックへの風当たりが頓に強くなっています。レジ袋削減、廃プラスチック反対といった従来からの動きに加え、ここ数年は地球規模で環境問題を引き起こす元凶としてプラスチックが槍玉に挙げられる様になりました。プラスチックはマイナスイメージを持つ言葉として、悪代官のような扱いとなっています。しかしプラスチックはそれ程までに非難されるべきものなのでしょうか。そこに誤解はないのでしょうか。本稿ではプラスチックに係る疑問のいくつかを採り上げ考えてみたいと思います。

プラスチックは有限資源を浪費しているか

石油は蒸留・精製によりガソリン、ナフサ、灯油、軽油等の石油製品になります。これらは社会の福利を増し豊かな日常生活を維持するために使われています。その意味で有限資源の浪費との決めつ

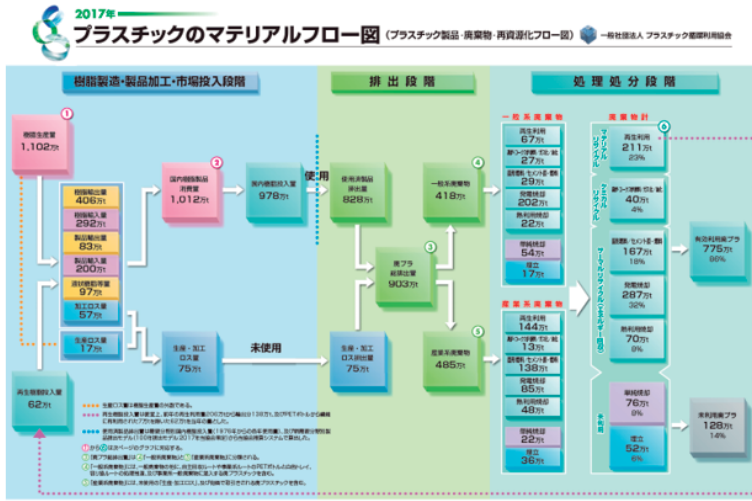
けは的外れと言わざるをえません。あるいは大量消費が問題というのでしょうか。プラスチックは主にナフサを使うので有限である石油を消費しています。ただし石油から採れるナフサは石油全体の二割程度で、しかもナフサ全てがプラスチックになるわけではありません。プラスチックに使われる石油量は石油総量の数%程度です(2)。更にガソリン、灯油、軽油、重油等がエネルギー利用のための一回限りの使用なのに対し、プラスチックは製品としての機能・役割を果

たした上で、適切なりサイクルにより繰り返し貢献することが可能です。少量の石油を有効に使っているというのがプラスチックの本当の姿なのです。

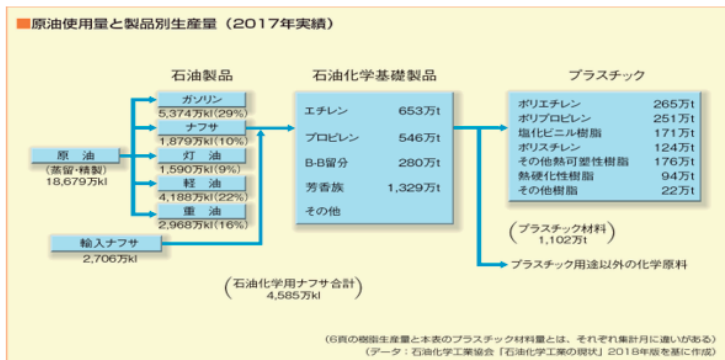
プラスチックはCO2を大量に排出しているか

製造・使用・廃棄・処理の過程でプラスチックはCO2を出しますのでCO2を排出しているとの主張に誤りはありません。ただしそれが大量というのは正しくはありません。経産省/文科省の報告

(1) プラスチック循環利用協会「2017年プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」



(2) プラスチック循環利用協会
「プラスチックリサイクルの基礎知識 2019」 ■ 原油使用量と製品別生産量(2017年実績)
*石油化学工業協会「石油化学工業の現状」2018版を基に作成



書(3)によると、二〇一六年C O2国内総排出量は一二億ト、このうち産業部門が五億ト、部門の一部である化学産業が一億トでした。石油化学は化学産業の更にならぬ一部で、排出量は一億トの半分となつています(石油化学にはプラスチック以外のものも含むのでプラスチックに限れば排出量はもう一段少ない)。寧ろこの報告書で注目すべきは運輸、家庭、業務の三分野でC O2発生量の半分を占めていることです。運輸が主に化石燃料、家庭/業務が主に電力によるもので、C O2の抜本的削減にはこの三分野での重点的取り組みが必要なのがわかります。勿論C O2排出削減は全部門の課題であり、石油化学分野でもその実現に全力で取り組まねばならないことはいまでもありません。

廃プラのリサイクルはマテリアル最優先とするべきか

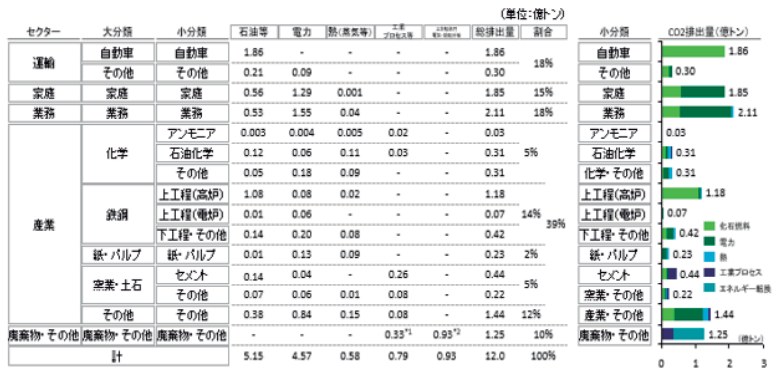
廃プラのリサイクル手法にはマテリアル、ケミカル、サーマルがあります(4)。これらは夫々長短所がありますが、日本ではマテリアル最優先の考え方が強いようです。その大本にはあるいはプラスチックはマテリアルで永遠に循環可能との思い入れがあるのかも

しれません。循環の輪がマテリアルリサイクルによつてくるくる回り続けているといったイメージです。しかしながらここで理解すべきなのは廃プラ再生品の品質は落ちるといふことで、品質劣化を補うためバージン樹脂の追加が必要となります。しかしそれでも純バージン品を超えることはできません。再生品はこのハンドレイの下、市場を開拓していかねばならないのです。マテリアルしたが市場がないというのでは事業者が苦しむこととなります。しかも再生品のマテリアルリサイクルは数回が限度といわれており、いずれマテリアル不能の廃棄物として処理しなければなりません。結論から言えば、マテリアル、ケミカル、サーマル間には抑々優劣といったものはないのです。マテリアル最優先と最初から決めつけることは、有効な環境負荷削減実現の観点からは問題ありといわざるをえません。案件毎に三手法のいずれが最適かを見極め対応していくことが必要です。

廃プラは燃やしてはいけないか

サーマルリサイクルはリサイクルではないとの意見があります。日本の廃プラ有効利用率は八六%と

(3) 経済産業省/文部科学省「エネルギー・環境技術のポテンシャル・実用化評価検討報告書」の「2016年度国内セクター別CO2排出量」



*1)内訳: 焼却などの産業廃棄物(0.29倍トン)、産業・燃料からの蒸気+管線CO2(0.03倍トン)
 *2)内訳: 事業用自家発電(0.44倍トン)、石油精製(0.34倍トン)、および石灰製品+ガス製造+地域熱供給+蒸気。

世界トップレベルですが(1)、このうち五八%がサーマルなので「有効利用率は二七%に過ぎず欧米に比べ日本は遅れている」、「価値ある資源を燃やすのは問題だ」、「燃やすのはサーキュラーエコノミーの考え方にそぐわない」といった批判がなされています。日本ではサーマルリサイクル率が高いのはそれなりの理由があるのですが、それはそれとして廃プラを燃やすのは良くないことでしょうか。ここで理解すべきはサーマルリサイ

(4) プラスチック循環利用協会「プラスチックリサイクルの基礎知識 2019」16頁 ●三つのリサイクル

分類(日本)	リサイクルの手法	ISO 15270
マテリアルリサイクル(材料リサイクル)	再生利用 ・プラ原料化 ・プラ製品化	Mechanical Recycle (メカニカルリサイクル)
ケミカルリサイクル	原料・モノマー化	Feedstock Recycle (フィードストックリサイクル)
	高炉還元剤 コークス炉化学原料化	
	ガス化 油化	化学原料化 燃料
サーマルリサイクル(エネルギー回収)	セメント原・燃料化 ごみ発電 RPF*1 RDF*2	Energy Recovery (エネルギーリカバリー)

*1: Refuse Paper & Plastic Fuel (マテリアルリサイクルが困難な古紙と廃プラスチックを原料とした高カロリーの固形燃料)
 *2: Refuse Derived Fuel (生ごみや可燃ごみや廃プラスチックなどからつくられる固形燃料)

クルの主張は廃プラならなんでも燃やせというものではないことです。汚れがひどい、雑多な樹脂が混在しているといったマテリアルリサイクルがかえって環境に負荷をかけてしまうようなものについては、エネルギー回収も選択肢の一つとして考えるべきというのがサーマルリサイクルの考え方です。

バイオプラはCO2削減の切り札か

本年五月、国が策定した「プラスチック資源循環戦略」において

「二〇三〇年までに最大限約二〇〇万トのバイオプラスチックを導入することを目指す」とされました。バイオプラならカーボンニュートラルの観点からCO₂削減効果ありという訳です。化石燃料由来プラは生産・使用・廃棄においてCO₂を出さなければバイオプラへの切り替えを進めるといのは一つの方向性を示したものととして評価できるので、それが実現可能かとなると疑問が多々出てきます。例えば最大限約二〇〇万ト導入としていますが、年間国内プラ原料生産量が一千万ト程度の中で、目標の量をどう確保するのか、それだけの市場があるのかといった心配があります。また抑々何を原料とするのか、品質・機能面での問題はないのかといった根本的な疑問も生じてきます。この他にも化石燃料系プラとバイオプラの並存が可能か、特にリサイクル段階での並存が可能かといった大きな問題も残されています。

プラスチックは全て生分解性とするべきか

道端、海岸などで廃プラが捨てられているのを見掛けます。

見た目も悪く、川・海に流れ出れば海洋ごみとなってしまします。丈夫で長持ちがプラスチックの売りの機能なのですが、自然界に流出するとこれが逆に仇となってしまいう訳です。そこで生分解性を持たせたらよいとなるのですが、生分解性はプラスチックの機能（丈夫で長持ち）を打ち消すことなので、付与すべきか否かはよく考えておかねばなりません。例えば上下水道管、建材、精密機器、電機製品、自動車、電子カード等で使われるプラスチックが経時とともにボロボロになったら大変なことになってしまいます。また中途半端な分解がマイクロプラスチックの原因になるのではとの懸念も拭えませんが、今使われているプラスチックの多くはあえて生分解性にするだけのメリットがありません。結局のところ生分解性を付与できるのは一部に限られるのではないのでしょうか。また生分解性プラについても、リサイクル段階でバイオプラと同様の問題が残っています。

終わりに

化石燃料系プラは造るな・使うなどの意見も耳にします。そ

の当否はさておき、ここで考えねばならないのは化石燃料系プラを直ちに否定できるかということ。好む好まざるに拘わらず現代社会は化石燃料系プラを使うことで成り立っています。今後脱却が進められていくとしても、当面は化石燃料系プラを使わざるをえません。化石燃料系プラを頭から否定するのはなく、これとどううまくつきあっていくかを考えることがこれまでに以上に求められるものと思います。（本稿中意見に係るものは筆者個人の見解です）

『令和元年度 紙リサイクルセミナー』に参加

去る一〇月三〇日（水）、星稜会館にて公財）古紙再生促進センターが主催する表記のセミナーが開催された。市況が悪化しているせいか、会場は全国から訪れた業界関係者で満席となっていた。主催者である古紙センターの渡代表理事はあいさつの中で、令和三年度に古紙利用率六五%の目標を達成するために古紙利用促進に向けた取り組みを加速することの必要性

について語っていた。当日は、三名の講師からそれぞれ講演があった。

一人目は、一般社団法人日本RPF工業会総務広報委員長の田墨啓治氏。『廃プラスチックの現状と処理』と題し、廃プラスチックの海洋汚染や主な流出元になっている東南アジア各国の現状、日本の取り組みなどについてお話があった。日本では、二〇三五年までに使用済みプラスチックを熱回収も含めて一〇〇%有効利用することが目標とされており、その中でRPFも生産が拡大しているそうだが、需要の拡大が課題だそう。

二人目は、古紙センター業務部長 国際担当部長の金谷信章氏。『中国が与えた影響〜欧米の古紙輸出と東南アジアの古紙輸入の動向』と題し、中国情勢に端を発した世界的な古紙の需給動向についての説明と、今後の需給予想とし



300名近い聴講者で満席でした

て、米国・欧州・アジアでの段原紙生産能力増やアジア・インドで判明している古紙消費増の試算などを紹介した。これらを踏まえ、今後アジアを中心に段ボール古紙の需要は増えていくことになるが、それまでにまだ時間がかかることだった。日本のリサイクル維持のためには、品質の確保、販売先の分散化、長期契約の推進などが必要だが、リサイクルの重要性を改めて社全体に浸透させていくことも重要であると話をされていた。

三人目は、全国製紙原料直納商工組合連合会経営革新委員長である梶野隆史氏。『国内古紙の品質改善について』と題し、行政回収が広まった二〇〇〇年代から、古紙が発生物として需給調整が困難になり、構造的に余剰していること、外国人住民や単身世帯の増加による排出段階での分別水準の低下、人材不足や素材の多様化などによる選別段階での課題、ペーパーレス化などの需要の減退をはじめとする製紙会社の課題などについて説明され、分別基準の統一、品質基準の明確化、社会的コスト負担の再構築をしていく必要性について説明された。

締めのご挨拶では、全原連の栗原理事長から、厳しい状況の中で

も回収した古紙のごみ化は絶対阻止しなければならぬと訴えた。

緊迫する古紙情勢に対する理解を改めて深めることは出来たが、今後どうなるかの明確な答えは出なかつた。ただ、長期的には古紙の需要先が東南アジアにスライドし、市況も回復していくであろう可能性を感じた。それまでに、古紙回収システムを維持していくために、回収コストを負担してもらえよう呼び掛けていく必要がある。また、古紙を取り巻く国際状況の変化により、輸出向けの古紙も国内と変わらない品質基準が求められてきており、より一層の分別の徹底、品質確保を広めていかななくてはならないと感じた。

(TKO)

**どうなる海外古紙事情：
古紙ジャーナルセミナーに参加**

去る十一月一日(金)に開催された古紙ジャーナル社のセミナーに参加しました。今年、『中国から東南アジアへ、古紙需給の行方』と題し、主催者である古紙ジャーナル社の本願編集長始め、商社など古紙の海外事情に詳しい五名の方々から講演がありました。内容的には重複するところもありましたので、現状と今後の予想について皆様のお話をまとめて整理したい

と思います。

現状ですが、特に段ボールを中心とした最近の古紙の輸出価格の暴落とだぶつきにより、輸出価格を追い風に無理に拡大した小規模事業所や集団回収の放棄、逆有償回収の拡大、行政回収の入札価格の暴落と入札不調、落札した問屋の破綻による未払い発生、古紙ヤードの閉鎖等が起きています。また、国際的な古紙価格の下落により、原紙価格が値下がり傾向にあり、好調だった日本の原紙輸出も苦戦しているということでした。

二〇二〇年は、中国が年内で古紙の輸入をゼロにしようとしていることもあり、前年より更に悪くなりそうですが、需給バランスの予想としては、年間で五〇〇七〇万トン程度の余剰としています。

今後、特に東南アジアを中心に人口が増加傾向にあることにより、古紙の使用量も年々増えていくそうです。東南アジア各国を始め中国からの製紙ラインシフトにより増産を計画、日本国内でも段原紙は増産の計画であり、現在余剰している古紙も早ければ二〜三年、遅くとも数年内に回復する可能性が高いそうです。東南アジアの現地での回収のインフラが整うまでにはまだ時間がかかり、輸入依存が続く

からです。但し、日本の古紙も東南アジアを中心に販売を広げていくことになりそうですが、その価格は中国バブルには届かず、高くてもトン一七〇〜二二〇ドル程度とのことでした。日本の古紙が分別や価格面で優位性を保てるか、運賃負けにより価格面で劣勢となるか、繊維が短いという品質的な不利により競争力が低下するか、様々な可能性を示唆されていました。

本先にこの先どうなるかは不透明ですが、数年先になるか否かは余剰している古紙がやっばり必要だ、足りないとなる可能性があるのならば、今は苦しくとも絶対に古紙リサイクルシステムを崩壊させないよう、努力していきたいと改めて感じました。

(亜)

トイレットペーパー
「フーメラン」
 (65m巻き・100個入り)
 1ケース3,000円(消費税別・配達料込み)です。
 ※なお、配達には以下の地域に限定させていただきます。
 小平市・東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市・東大和市
 ご注文は当組合までお願いします。
 TEL: 042-395-9788
 FAX: 042-395-9787

リサイクル掲示板

— お 願 い —

集団資源回収を守るために

1面記事でも、当組合理事長から資源回収システム緊急事態宣言が出されていましたが、2017年秋から中国の環境政策、米中の貿易戦争により、古紙の海外市況が不安定になり、古紙の市況が大変悪化しています。価格の問題もそうですが、古紙が余剰していて、メーカーや問屋の在庫があふれ、納入制限がかかる事態になっています。このような中でも市民の皆様、行政の協力のもとに長年かけて築き上げてきた集団資源回収を維持していくために、下記の事項に対し、皆様には絶大なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

①回収コストに見合った回収頻度、回収量、回収方法

古紙価格が乱高下したことにより、過当競争で様々な回収サービスが展開されてきた時期がありました。ところが、こここのところの市況の悪化で、1回の回収で一定数量集めないとサービスを維持する回収コストが捻出できなくなっています。毎週回収、戸別収集、少量ロットでも回収などのサービスを行っていた場合、ご相談の上回収頻度を減らしたり、回収方法自体を見直しをさせて頂く場合がありますので、ご理解ご協力をお願いします。

②採算の取れないびん、ペットボトルなどの回収の見直し

びんやペットボトルなどは取り扱っている業者も限られてはいましたが、サービスの拡大として行っているケースもありました。古紙の回収でカバーできていたうちはよかったのですが、取り扱いをやめている業者が増え、代わりに出来ないかというお問い合わせが組合にも多く寄せられています。もともと単体では採算が取れないため、ご紹介できる業者もいないのが現状です。これらの回収を無理に継続せず、古紙・古着・アルミ缶に絞った回収への見直しをご検討をお願いします。

③回収業者を守るための業者助成金の復活や増額

組合では、集団資源回収を維持していくために、回収を支える回収業者への助成金の必要性を以前より訴えてきました。相場の回復により、助成金が値下げ、一部0円になっている自治体も増えていましたので、改めて復活や増額をお願いしているところです。

集める人がいなくなれば、集団資源回収システムは崩壊します。どうか、回収業者への助成を拡大していただきますよう行政関係者にはお願いしつつ、市民の皆様には応援のほどをお願いします。

④古紙の分別の徹底と品質の確保

中国が環境問題に端を発して規制を強化したように、東南アジア各国でも輸入廃棄物への規制が強化されています。このため、輸出される古紙の品質も国内向けの古紙並みかそれ以上の品質基準を求められるようになりました。

これまでも市民の皆様には、丁寧に分別をし、品質の確保にご協力を頂いてまいりましたが、今後ともさらなる分別の徹底と品質の確保にご協力いただきますようお願いいたします。

「西東京市でも資源物の戸別収集が始まりました」

当組合では、平成二六年より東村山市、平成二九年より東久留米市で資源物の戸別収集委託業務を行なっておりますが、令和元年一〇月一日より西東京市でも資源物の戸別収集委託を開始しました。スタートにあたり細心の準備を

してまいりましたが、それでも始まった当初は取り残し等が多数発生し市民の皆様に変々ご迷惑をお掛けし、申し訳ございませんでした。

現在、回収漏れの件数は大分減ってまいりましたが、まだ取り残しがでてしまうことがあります。つきましては、市民の皆様にご紹介させていただくポイントをいくつかご紹介させていただきますので、ご協力をお願いします。

●各市共通

【回収に出される際のポイント】

①必ず決められた時間までに出して下さい。(戸別収集になり、今迄とは回収時間が大幅に変更になります。)

②回収員が目視で確認できるところになるべく出して下さい。(敷地内が原則ですが門扉等に隠れてしまうと取り残してしまうことが多くなります。)

③雨天時には、古布は出さないで

下さい。(※濡れると資源にならないため)古紙は通常と同じところに出して下さい。(※通常時と違うところに出してしまうと取り残しが多くなります。)

④蓋付きのバケツに入れられると、生ゴミの臭いがつくなどして古紙・古布が資源にならなくなります。古布が資源に出来ず取り残す可能性もあります。

⑤雑紙はヒモで縛るか紙袋に入れて出してください。(最近、雑紙を段ボール箱に入れて出されるケースが多数散見されます。段ボールと雑紙はリサイクル用途が違います。是非分別して出して頂くようお願いいたします。)



箱に紙を混ぜて出すのを避け、紙類を別々に出すようにお願いします。

いくつかポイントを挙げさせて頂きましたが、回収現場ではまだ若干の混乱が残っております。今迄通りの適正な回収を行えるよう皆様のご協力をお願いします。(F)

資源回収車両

運転者安全講習会

去る十一月二二日(金)、東村山市民センター二階第一〜三会

議室にて、資源回収車両運転者安全講習会が開催された。

土井共同受注検査委員長から開会の辞が述べられ、福田業務委員長の先導により、「東多摩再資協 安全・行動宣言」が唱和された。

吉浦理事長の挨拶では、回収作業員へ、日頃の安全作業への取り組みに対する感謝を述べられ、年末に向け引き続きの無事故のお願いがされた。

御来賓として、東村山市資源循環部ごみ減量推進課課長田口輝男様、東久留米市環境安全部ごみ対策課課長後藤寿之様、業務係長小林功一様に御参加いただき、日頃の回収作業によって市民の皆様にご喜ばれていること、そして感謝の言葉を頂いた。紺野専務理事より安全講習の趣旨説明があり安全講習会が開催された。

全組合員が、点呼時に使用しているアルコールチェッカー



およそ100名の運転手の皆様にご参加いただきました。



点呼でのアルコールチェッカーの実演中。このように対面で行います。

(ALC-mini IV)を販売されている東海電子株式会社安全システム機器事業部営業部営業支援グループ中山晴美様を講師に、『点呼の重要性 飲酒教育、健康起因について』講演して頂いた。アルコールチェッカーの正しい使い方、点呼の要領と意味、アルコールが引き起こす問題、体内から排出されるまでの時間などを学んだ。参加者全員でアルコール体質試験パッチを使い遺伝子型を検査した際、「やっぱり呑めないんだ!」「あれ?大好きなのにダメなの?」などの声が続出した。最後に自己チェックシートでも、改めて自分とお酒の付き合い方について考えさせられる結果になった。最後に小畑副理事長の講評及び閉会の辞をもって安全講習会は閉会した。

(水野K)

【東資協青年部研修会 コアレックス信栄 視察報告】

令和元年一月二十九日、東資協青年部の視察研修会に参加しました。まずは、新宿駅に集合してバスで静岡方面に向かったのですが、東名高速でまさかの事故渋滞、二時間遅れで沼津港に到着し、昼食をとって目的地である静岡県富士市にあるコアレックス信栄に向かいました。

同工場は、もともと富士宮市にあった本社ともう一つの工場を統合して二〇一五年に移転して開設した工場です。富士山の恵みである豊富な地下水と、富士川を境に電力会社が変わるため、リスクマネジメントの意味もあってこの地を選んだそうです。住宅街の中に位置しているため、塀を作らず公園の中の工場、災害時には避難場所となる工場といったコンセプトで建設されたそうです。

製品の出荷場所を通り抜けながら、原料ヤードをスタートし、パルプパッケージングするところまで、工場内を製紙工程に沿って見学させていただきました。



原料古紙を大量の水を加えて貯留している

こちらの工場では、牛乳パックや上質紙のような上物古紙はもちろんですが、いわゆる難処理古紙と言われるような、ノンカーボン紙、アルミ付きの紙、剥離紙、切符なども積極的に受け入れて原料にしています。もちろん、歩留まりなどを考慮して仕入単価が安くだったり、逆有償で受け入れてくれるものもあるそうです。ほとんどビニールで少しだけ紙がついているようなものあって、こんなものまで原料になるんだとびっくりしました。

この工場では、こうした難処理古紙を原料とするために、豊富な水を用いて徹底した異物除去と洗浄を行っており、その工程も間近で見せてもらいました。また、除去した異物もプラスチック類は乾燥させてRPFの原料になるなど、ゼロエミッションの取り組みもなされていきました。また、最後に見せて頂きましたが、使用した水の処理設備にもかなりのスペースを割いて川に流せるまで徹底して行

われていることが分かりました。

こうした見学報告をすると、なんでもリサイクルしてくれるならいいじゃないかという声も頂のですが、こちらの工場は家庭紙メーカーなので洋紙・板紙メーカーとは生産量にも大差があり、品質にうるさくない（使ったら捨ててしまいうるさくない）やトイレトペーパーを作っていることで、白色度や強度の基準が違う）こともあり、特別な設備を設けていることなど、限られた製紙会社でしか受け入れが出来ないのが現状です。また、難処理古紙が入っているものは処理費がかかりますので、普通にはリサイクル出来ないことをご理解いただきたいと思えます。久しぶりに東資協青年部の行事に参加することが出来、部員の皆様とも交流ができて良かったです。（185）



出来立てほやほやのトイレトロールがどんどん流れてきます

東村山市・未来を考える
3Rワークショップに参加

昨年一月から一二月の間に三回にわたって開催された表記のワークショップに組合役員並びに組合員の従業員が参加しました。

このワークショップは、「東村山市一般廃棄物処理基本計画」の改定にあたり、これからのごみ減量・資源化について考え、市民の意見を聞く場として開催されました。第一回目・二回目はゴミニストの江尻京子氏を講師にプラスチックごみ、食品ロスをテーマに、第三回目は環境カウんセラーの瀬口亮子氏を講師に脱使い捨てをテーマに講演とグループワークを行いました。

私は第三回に参加しましたが、参加されている市民の皆様の意識の高さに驚き、また私自身は、身近なところから少しずつ使い捨てをしない生活に改めていかなければならないなど実感しました。（TKO）



グループワークで話し合った内容をグループごとに発表しました。脱使い捨て出来ることがまだたくさんありました。



小平市環境フェスティバルの様子

【秋のイベント報告】
 去る九月七日(土)午前十時〜午後二時、中央公園・ふれあい下水道館にて『こだいら環境フェスティバル』、十月二十日(日)は、午前十時〜午後一時、秋水園にて「みんなが主役 未来を守る 3R」のスローガンの下『東村山市リサイクルフェア』が行われました。
 東多摩再資協では、恒例となっている古紙分別ゲームの出版、使わなくなったおもちゃ、ぬいぐるみの無料回収、牛乳パックの無料回収を行い、リユースとリサイクルの啓蒙活動を通じて、市民の皆様と交流を図ることができました。各イベントとも天候に恵まれとても良い雰囲気の中イベントに参加することが出来ました。(高橋)

北国の友・東龍夫(ひがしたつお)さん逝く

日本再生资源事業協同組合 副会長
 札幌市資源リサイクル事業協同組合 理事長
 有限会社ひがしリサイクルサービス 代表取締役



東さんにお会いしたのは、一九九三年、バブル崩壊で再生资源物が大暴落している頃でした。日資連は「資源回収非常事態宣言」を発してデモ行進や決起大会を開いて窮状を訴え、私も市況対策委員長として国や自治体そして関係業界に陳情のため奔走していました。そんな折に、九二年ブラジル・リオデジャネイロのアジエンダ21(環境と開発の国際連合会議)に参加した回収業者が北海道にいと聞き、お会いしたのが東さんとの最初の出会いでした。
 その後、練馬のご実家に上京される度に会食しながら業界市況や環境問題など忌憚なく意見交換させて頂きました。さらに日資連の会長時代には、北海道地区の副会長就任をお願いし、連合会の組織拡充や経産省原局認可取得にも多大なご尽力を頂きました。当組合の視察旅行にも何度かご参加を頂き、札幌市資源リサイクル事業協同組合の皆様とも友好を深めることができました。
 東さんは、南アフリカのヨハネスブルクで開かれた「持続可能な開発に関する世界会議」にも市民連絡会の一員として参加され、環境や貧困問題にグローバルな見識をもって行動しながら、地域でも様々な活動をしておられたようです。資源リサイクル・ごみ減量運動は勿論、ノンプラスチック運動・無農薬農業支援、障害者の職場づくりなどのNPO運動にも積極的に参加されている話も聞きました。東日本大震災で放射能被害を受けた福島二本松市には、昨春まで八年間欠かさず支援に訪れておられたことにも頭が下がります。
 昨年六月上旬、肺がん告知を受け入院すると突然の電話がありました。丁度私も肺がんを手術して二カ月目だったので逆に励まされ、共に完治を誓い合ったのに無念でなりません。
 少年のように純粋な探求心で正義への限りない情熱をもって人生を全うされた東さんに出会えたことを有難く思っています。あなたの大学後輩として北海道で学んだ倅(孫生)共々、沢山の思い出を頂き、心から感謝申し上げます。冥福をお祈り申し上げます。

合掌

東龍夫さんの著書 『ザ・ソウル・オブ くず屋 SDGsを実現する仕事』

インターネットで絶賛発売中です！

この本を書き上げた直後のがんが発覚し、亡くなる1か月前の10月5日に初版が出版されたのですが、まさに東さんの魂がこもった遺作となってしまいました。『くず屋』という言葉はある意味では差別用語であり、抵抗感のある方も業界内には多いようですが、そこをあえて使うあたりがタイトルからして東さんらしいです。

業界の人間はあまり持っていない市民感覚で、リサイクル事業から環境問題まで様々取り組んでこられた東さんの思いがつつられております。業界の方だけでなく、市民、行政、多くの方々にこれから我々が地球市民としてどのように環境問題に向き合っていけばいいか、その教科書としてお手にとっていただければと思います。

紺野 武郎



小平市、東村山市の総合防災訓練に参加しました

小平市は、令和元年九月一五日（日）に上宿小学校にて、東村山市は同二一日（土）に第七中学校にて開催されました。

私は小平に参加しましたが、当日はシェイクアウト訓練を行いました。シェイクアウト訓練とは、自宅、職場、外出先などどこでもその場で「姿勢を低く」「頭を守り」「動かない」という動作を行うことで、地震の際の安全行動を身につける訓練です。

体験ブースでは、煙体験ハウス・初期消火体験・担架作成体験・転倒家具救出訓練・AED取り扱い体験・包帯法体験・トリアージポスト発電機体験など、普段経験できない体験をもらえるよう工夫をしていました。



東村山市の会場には最新のVR体験車が登場！人気があって乗れませんでした。防災訓練も進化しています！

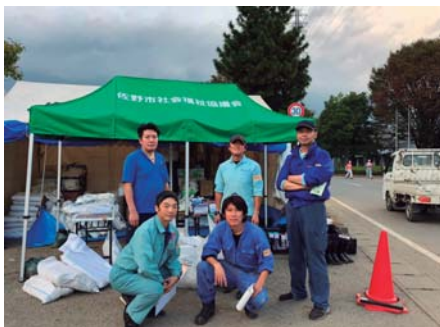
六月には山形県沖を震源とする地震、七月には九州南部を中心とした豪雨、一〇月には台風が立て続けに発生しました。自然災害は突然襲ってくるものです。日常から常に意識できるように心がけ、普段からの備えが重要だと思われています。（若林）

台風災害の各地被災地で

復興支援活動に参加しました

令和元年は九月一〇月に台風一五号、一九号、二二号と相次ぐ台風により、広範囲で未曾有の風水害に見舞われました。まずは、被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げたく存じます。

上部団体である日資連で義援金の募集があり、東資協東多摩支部の会員の皆様からお志を頂き、寄付をさせて頂きました。また、日資連青年部で復興支援ボランティア



佐野市災害ボランティアセンター前にて



持ち込んだトラックで土嚢運びをさせて頂きました。往復 15 km の道のりを 2 台で4往復しました

ア活動に行くという話を受け、一〇月二七日（日）には、栃木県佐野市に奥山商店から一名、三栄サービスから三名参加をしました。こちらでは、持ち込んだトラックを使用して、被害に遭われた家から土砂の仮置き場になっている運動場まで土嚢袋を運搬したり、家の中の水没した家財道具の運び出しの作業をさせて頂きました。その後、一一月二日（土）に千葉県原市（家財道具の運び出し）に二名、同二四日（日）には長野県長野市（畑に流れ込んだ土砂の運び出し）に一名参加してまいりました。

以下、参加した者から報告と感想を掲載させていただきます。

●奥山商店(株) 福田 雄二

私も会社としてはいくつものタスキングで何度か協力を行ってま

いりましたが、私自身はタイミングが中々あわず、今回初めて佐野市での活動に自身が参加してまいりました。当初は被災されたお宅の庭の泥を土嚢袋に詰める作業予定でしたが、重機が入って土砂を掬ってくれたため、作業することが無くなったと言われました。急遽ボランティアセンターに掛け合い、土嚢袋を一時保管所に搬送する作業をしてよいか問い合わせ、OKが出たため午後三時過ぎまでトラック二台で約二〇トンの土嚢袋に詰められた土砂の運搬を行いました。なかなかボランティアのマッチングが合わず、有効な作業が行われないとよく耳にしましたが、トラックで被災地に行っていたお陰もあり私達の業界ならではの作業ができたのではないのでしょうか。今後も機会があれば是非また参加したいですし、継続して行わなければならぬと感じたボランティア体験でした。

●三栄サービス 廣住 眞弓

私は、記録的な大雨で大きな被害が出た、千葉県原市に災害ボランティアに行つて参りました。高速をおりてボランティアセンターまでの道中では、災害の被害はあまりわからなかったのですが、川の付近の土地の低い所に行くと、

大雨の凄まじさがまじまじと伝わって来ました。ボランティアセンターに着くと、思った以上にボランティアに来ての人が沢山いて日本人の暖かさを感じる事ができました。ここで、五人一チームになり活動しました。

私たちのお伺いしたお宅は、年配の方が住んでおられ、その娘ご夫婦が、片付けに来ていました。二人で片付けるには大きな家で、すぐ横に川が流れていて今までに三回も浸水被害にあった事があり、今回は今までにないぐらいの水量で、冷蔵庫がプカプカ浮くほどだったとおっしゃっていました。初めて会うボランティアの人と、初めて行くお宅で、水浸しになった家財を外に出したり床の水切りや拭き掃除、泥の洗い流しなどのお手伝いをしました。そんな長い時間ではありませんが、皆誰かの役に立てればと言う共通の思いから一体感があり、最後解散の時には何故か寂しい気持ちになりました。ボランティア先のご夫婦はとても喜んでくれました。

ボランティアは義務ではなく、自分の気持ちで動き人の役に立ちたい、もし自分が相手の立場になった時にどうして欲しいかなど色々と考えさせられる経験になり

ました。自分だけだと行きたいと思ってもなかなか行動にうつせませんが、今回、社長に誘っていただき良い経験をさせてもらいました。

またどこかで困っている人がいたらボランティアに参加したいと思えます。

【中学生職場体験学習】

組合活動の一環である中学生職場体験学習を、去る九月十二日・十三日の二日間（東村山市立第二中学校）、九月二十六日・二十七日の二日間（東村山市立第四中学校）の四日間、実施いたしました。

両校とも一日目は、古紙リサイクルの成り立ち、古紙分別の方法、禁忌品等の説明を、古紙再生促進センター発行「まんが紙リサイクル」をテキストに使用し、勉強を行いました。午後にはヤード内を見学後、実際に現場に立ち、新聞の紐切りや古紙の選別作業を作業員に混じって体験いたしました。

二日目は、引き続きヤード内で作業を行い、古紙がどこから発生し回収され、選別・加工作業を経て、どのように出荷されていくのかという一連の流れを理解していただくよう学習いたしました。午後には、組合事務所にて名刺の渡し方から社会人としてのマナーを



勉強し、古紙のリサイクルについて確認テストを行いました。最後に、おたのしみの紙抄き体験をしてもらい終了いたしました。

職場体験を通じ、生徒たちの将来の設計の一助になれば幸いです。これからも多くの市民の皆様と交流を持つ機会があればと思います。（高橋）

お仕事体験イベント

クルメツザニア2019に参加

去る一〇月二六日、東久留米市立下里小学校にて、クルメツザニア2019が開催されました。東久留米市内在住または在学の小学一年生〜六年生を対象にしたお仕事体験ができるイベントです。

「クルメツザニア王国」という一日限りの仮想王国を作り、市内隣の三五の企業・団体が「ジョブマスター」として、参加者の小学生が「国民」になり仕事体験を樂しめます。仕事体験をして「ジ



毎年大人気の紙漉き体験。素敵な絵葉書が出来ました。

ョブシール」を集め、イベント内の仮想通貨「クルリ」に換金、「シティブロック」に交換して買い物を行うことができます。

当組合は「古紙のリサイクル屋さん」として出店しました。古紙の分別作業と紙漉き体験をしてもらいました。リサイクルの流れが違うことを説明したあと、一生懸命分別作業に取り組んでいた小学生から「ちゃんと分別しないとこんなに大変なことになるんですね。これからは家でちゃんとやりませう。」と言ってもらえ、年齢を聞いてみたら七才とのこと。立派です。相変わらず紙漉き体験は大人気で、出来上がったはがきサイズの紙を大切そうに持って帰る姿を見る時が一番うれしく感じます。

最後にこのイベントを企画運営してくださいました、東久留米青年会議所の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。（水野K）

『東多摩再資協BCP策定』

二〇一一年の東日本大震災以降、昨今の自然災害はこれまでの私たちの常識を覆す大きな被害を社会に及ぼしています。当組合は近隣五市から資源回収委託を受け、小平市リサイクルセンターの運営と集団資源回収業務を行っており、地域の生活環境の保全に大きな責任を負っています。

当組合では、これら自然災害の他急激な環境の変化にも迅速に対応し業務を復旧、継続することを目的として、東京都中小企業団体中央会様の支援事業の下、二〇一八年九月から一年を費やし、BCP（事業継続計画：Business Continuity Plan）策定に取り組んできました。今後は策定したBCPが生きた・使えるBCPにしていくことが重要であり、関係機関の皆様にもご協力をいただきながら取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。（山本）

行事・行動

【令和元年九月】

- 三日：財務委員会
- 七日：小平市環境フェスティバル
- 九日：東資協・理事会
- 十日：小平RC責任者会議

- 十一日：定例理事会
- 十二日：東村山第二中職場体験（～一三日）

- ・東リ業協会・理事会
- 十五日：小平市総合防災訓練
- 十七日：小平RC J V会議
- 二〇日：BCP策定講習会
- 二一日：東村山市総合防災訓練
- 二四日：小平市廃棄物減量審議会
- 二五日：東村山市業者連絡会議
- 二六日：東村山第四中職場体験（～二七日）
- ・業務委員会

【十月】

- 一日：西東京市戸別回収開始
- 二日：東村山市リサイクルフェア実行委
- 四日：共同受注検査（東久留米・小平RC）
- 八日：東資協・理事会
- ・小平RC責任者会議
- 十日：小平RC J V会議
- ・定例理事会
- 十一日：共同受注検査（東久留米）
- 十七日：小平RC健康診断
- 十八日：共同受注検査（東久留米）
- 二〇日：東村山市リサイクルフェア
- 二二日：業務・集団回収委員会
- ・広報委員会
- 二三日：東村山市リサイクルフェア実行委
- 二六日：クルメツザニア
- 二七日：災害支援活動（栃木県佐野市）
- 二八日：東村山市廃棄物減量審議会
- 二九日：BCP策定講習会

- 三〇日：西東京市廃棄物減量審議会
- ・紙リサイクルセミナー

【十一月】

- 二日：災害支援活動（千葉県茂原市）
- 五日：小平RC責任者会議
- 六日：古紙持ち去り問題意見交換会
- 十一日：東資協多摩拡大理事会
- 十二日：定例理事会
- 十五日：小平RC J V会議
- ・古紙ジャーナルセミナー
- 十八日：GPS調査（東村山市）
- 二〇日：小平市リサイクルきゃらばん
- ・業務・集団回収委員会
- 二二日：回収作業員安全講習会
- 二四日：災害支援活動（長野県長野市）
- 二七日：東村山市業者連絡会議
- 二九日：東資協青年部視察研修

【十二月】

- 三日：小平RC責任者会議
- ・財務委員会
- 七日：ボーリング大会・忘年会
- 九日：東資協・理事会
- 十一日：定例理事会
- 十二日：小平RC J V会議
- ・経産省「下紙リサイクル構築支援
- 十六日：業務・集団回収委員会
- ・広報委員会
- 十七日：東リ協会・福島視察（～一八日）
- 二六日：東リ協会・理事会
- 三〇日：東村山市臨時回収
- ・仕事納め

編集後記

まずは、この度直言拝聴にご寄稿頂きました（二社）プラスチック循環利用協会の鈴木様、大変お忙しい中ありがとうございました。鈴木様が三月のTAMAとことん討論会で講演されたのを聴講させていただき、この度お願いした次第です。ストローが急に悪者にされるなど偏った報道がされたように感じる廃プラ問題について、分かりやすく解説して頂き、ありがとうございました。

さて、昨年末は古紙の市況の悪化、余剰で市民の皆様方、事業所の方々にはいろいろご心配頂いておりますが、徐々に皆様に回収コストに関するご理解、ご協力をお願いしているところです。

加熱する古紙輸出に乗じて拡大を続けた業者の多くは、地域のリサイクルシステムを荒らすだけ荒らして輸出価格の大暴落でここに来て急に手を引いていきました。無理で過剰なサービスマスははやでなくなつたのです。

『持続可能』であることを大前提に私たち組合は資源循環型社会構築に向けて歩んでまいりました。今は約二〇年前と同じ位の厳しい状況ですが何とか乗り切っていきたいと思えます。（TKO）